

分詞

「走っている男」(a running man)と表現したい場合、「男」という名詞に「走っている」という表現を加えることで修飾しています。たまたま「男が“手を振りながら”走っていた」というならば「男が走っていた」という表現に「手を振りながら」という情報が加わります。(A man was running waving his hand)

このように名詞や文章に情報を加える機能を分詞といいます。とても便利です。これをマスターしておく、表現の幅が広がるので是非ここでその仕組みを学習しましょう。

分詞は2種類あります。動詞にingをつけた「**現在分詞**」(playing など)と、動詞の「**過去分詞**」(used など)です。以下に分詞の機能について一つ一つ述べていきます。

1. 形容詞のように機能する分詞。

形容詞は例えば「hot tea」などのように名詞を修飾します。分詞にも同じように名詞を修飾するものがあります。

●名詞の前にいてそれが自ら行っている行為を述べる分詞

例★burning incense(燃えている線香)



※incense(線香)という名詞を前から burning という分詞で修飾しています。ここでは「燃えている」という自ら行っている行為を述べています。文章の中で以下のように使えます。

例★Don't touch the burning incense.

燃えている線香に触れてはいけません。

●名詞の前に置いて、名詞が他の何かに対して行っている行為を述べる分詞

例★an exciting game(興奮させる試合)

※試合(game)が「人を興奮させる」という行為を行っています。文章の中では以下のように使えます。

例★That was a really exciting game!

それは本当に興奮する(自分を興奮させる)試合だったんだ！

●名詞が受けている行為を述べる分詞

例★a used car(使われた車、中古車)



※使われた車、と車(名詞)を受けた行為を述べています。文章の中では以下のように使えます。

例★He always buys used cars.

彼はいつも中古車を買う。

●名詞の後に置くもの

a.名詞を後において、名詞が行っている行為として述べるもの。

「あそこで本を読んでいる男は私の父親だ」

例★*The man reading a book there is my father.*

※reading という分詞が man を後ろから修飾して「本を読んでいる男」と表現しています。(～している)

b.名詞を後において、名詞が受けた行為として述べている分詞(～された)

「私はビルによって描かれたその絵が好きである」

例★*I like the picture painted by Bill.*

※painted という分詞が the picture を後から修飾して「描かれた絵」と表現します。

名詞を修飾するときを使う言葉が分詞1語のみ(the burning incense など)なら名詞の前に置きますが2語以上になる場合は後に置く方が自然です(the man reading a book など)よって例えば「the reading a book man」(×)といった表現は不自然で、用いられません。

2. 完結できる文章の後につけて「同時に起きている事」 として情報を追加する分詞

a.～しながら....

完結する文章として、例えば「He checked email」(彼はメールをチェックした)というのがあったとします。メールをチェックしながら同時に「コーヒーをすすっていた」ならば、これは「彼はコーヒーをすすりながらメールをチェックした」になりますね。このように情報を追加するなら、～ingをつけた分詞を文章に追加してください。ちなみに「すする」は sip です。すると下記ようになります。

例★*He checked email sipping coffee.*

「彼はコーヒーをすすりながらメールをチェックした」

※「～しない状態で」と否定文にするなら分詞(～ing)の前に not つけるといいです。

例★*He started smoking not knowing he was in a non-smoking area.*

「彼は禁煙エリアだと知らずに、タバコを吸い始めた。」

b. ~されながら.....

上記と同じように、完結する文章の後に分詞をつけるわけですが、これが受け身で「~されながら」という表現をすることも可能です。その際に使う分詞は「過去分詞」になります。

例えば「少年は泣いていた」(A boy was crying)という独立できる文があったとします。ここに「母親に叱られながら~」という受け身表現を加えると「少年は母親に叱られながら泣いていた」になります。これを表現すると下記のようになります。

例★A boy was crying yelled by his mother.

↑
「少年は母親に叱られながら泣いていた」

3. having と一緒に使われる分詞

この分詞の機能を説明するまえに、一つ知っておいてほしい文法がありますので、それを説明します。下記の日本語を見てください。子供を産んだ母の例文です。

「子供を3人産んだ後に、彼女は働こうと決めた」

↑ 出来事1 (After~)

↑ 出来事2

この文章の中では2つの出来事が述べられています。1つは「子供を3人産んだ」で、もう1つは「彼女を働こうと決めた」です。当然、「子供を3人産んだ」方が「働こうと決めた」出来事よりも過去の出来事になります。このように、同じ文章の2つの出来事の中で、一方がより過去の出来事だった場合、その情報は had + 過去分詞で表現します。よって英語では以下のようになります。

例★After she had had three kids, she decided to work.

「子供を3人産んだ後に、彼女は働こうと決めた」

子供を3人産んだ後、というのは After という接続詞で表しています。

実はこういった文章は、分詞でも表現できます。その際は、時を表す接続詞(ここでは after)をとって、代わりに had + 過去分詞のところを「having + 過去分詞」にします。すると、.....

例★Having had three kids, she decided to work.

「子供を3人産んだ後に、彼女は働こうと決めた」

いかがでしたか？あとは、沢山の例文に触れることによって、自然に理解、応用していきましょう。